

# 令和4年度 第二ぎんなん作業所事業報告 (就労継続支援B型事業所 定員20名)

## 1 総括 ～平均工賃月額～

知的に障がいのある人たちの地域における「働く場や生きがいつくりの場」として、ニーズや要望に応じた支援と、利用者さんが喜びや充実感を味わえる生活や作業活動の実施に努めた。

令和4年度の一人当たり平均工賃月額額は20,388円で、前年比で568円の減額になったものの目標値よりは588円上回った。受託作業と木竹工は減収であったが、農園芸はソラマメ、落花生が豊作で増収となった。リサイクル事業はアルミ缶や新聞の買い取り相場が依然高く、増収となった。

作業所にほとんど休むことなく通ってきた利用者が多く、「生きがいつくり、居場所づくり」としてのニーズに応えることができたと考える。

表-1 年度ごとの工賃向上計画と実績比較

	R2	R3	R4
平均工賃月額 (目標値:A)	21,800	18,500	18,800
平均工賃月額 (実績値:B)	18,558	20,956	20,388
実績(B-A)	-3,242	+2,456	+1,588

## 2 利用状況

令和3年度に、退所された方が4人いたため令和5年3月現在で定員20人に対して16人となっている。年間利用総人数は、延べ3174人(令和3年度:3811人)で、1日当たりの実利用人数は13.1人(令和3年度:15.8人)であった。令和3年度は新型コ

表-2 利用状況

契約者	16人
1日当たり実利用人数	13.1人
年金1級受給者利用比率	36.8%

ロナウィルス感染予防のために休まれる方はほとんどおられなかったが、令和4年度は3人の方が休まれた。定員の20人に戻り、活動の幅が広がるようにしたい。

表-3 1週間の活動表

	月	火	水	木	金
終日	文書集配				
午前	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)
午後	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	リフレッシュタイム

## 3 支援の実際

### (1) 支援体制

施設長、サービス管理責任者、支援職員2人、非常勤職員3人(1人は事務職員)、文書集配ドライバー5人体制で

支援を行った。

## (2) 年間営業日数

243日(※R3年度:242日)

## (3) 活動状況

一人一人のニーズや要望、実態を考慮し、働く喜びと充実感が味わえるよう、表のとおり5種の作業内容を分担して実施したが、新型コロナウイルス感染が広がった影響で町内清掃活動が引き続き実施できず、その期間は実施せず、通常の作業に取り組んだ。

金曜日午後のリフレッシュタイムでは、生涯学習の一環として製作(絵)や音楽(三線、ピアノ鑑賞)、書道、室内ゲーム等の活動に取り組んだ。利用者さんが楽しみにしていた社会体験(春の遠足、秋の遠足)は、新型コロナ感染の予防のためこの2年間中止になっていたが、本年度は実施することができた。健康・安全的行事(健康診断、予防注射、火災避難訓練)等は予定通り実施でき、生活の充実や豊かさや安全に向けた取り組みを行った。

## 4 運営上の工夫と改善の状況

### (1) 事務局との連携

円滑な作業所の運営のためにも事務局との連携を図る必要がある。新型コロナ感染予防のため諸行事が中止や制限されることもあったが、法人の研修会への参加、ヒアリングの実施等により交流することができた。今後も育成会の一事業所としての位置づけを確認し、連携を深めていく必要がある。

### (2) 地域、その他の機関との連携

本年度も町内清掃は行わなかったが、町内を資源物回収で回ったり、家庭から持ってきてもらったりすることでの交流は続いている。作業所前には野菜の無人販売所を設置しているが、本年度は花苗の販売を加え、日々、前を通る人たちが作業所に目を向けてもらえるようにした。地域の人と話す機会も増え和やかに触れ合う機会が増えてきたような気がする。

各特別支援学校とは、オープンスクールに参加したり実習を受け入れたりして連携を深めた。熊本市の各相談支援センターとともに、利用者増加のためにこれからもつながりを大切にしていきたい。

家族会には、本年度初めに事務室の床を補修してもらった。懇談会は本年度も2回行ったが作業所で撮った写真をスライドショーで見てもらい、作業所の活動へ理解を深めてもらった。

熊本パイロットクラブとは長く交流が続いてきたが、本年度も、手作りマスク、寄付金、お菓子等、何度も支援してもらった。その度に温かい言葉をかけてもらっている。

### (3) 新型コロナウイルス感染予防と衛生指導

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、厚労省、熊本市からの要請に応じ、以下の新型コロナウイルス感染予防に心がけた。

- ① 職員の抗原検査
- ② 利用者、職員の体温測定、行動観察
- ③ 手洗いの徹底
- ④ アルコール消毒の実施
- ⑤ 施設設備のアルコール消毒
- ⑥ 換気の実施、空気清浄機の活用
- ⑦ 感染発生後の対応マニュアルの作成

### (4) 安全、危機管理

令和3年度は事故がなかったが、令和4年度は文書集配において1件の車同士の接触事故が発生した。文書集配担当者会は年に2回開催し、安全運転についての確認をしている。また、交通事故発生時の対応マニュアルを作成し全車両に載せている。また、作物の収穫作業時に利用者の転倒事故が起きた。状況を再確認し、作業時における事故防止に努めていきたい。

本年度は、3年ぶりに火災避難訓練を行った。危機意識を持つという目的で簡単なものであったが、様々な危険を回避するための避難訓練を定期的を実施したいと思う。

### (5) 老朽化対策

令和元年度に土地購入が実現したものの、建物の老朽化は進み、安全上も建て替えを早めに行う必要がある。一時的な改修等はこれまでも何度か行ってきた。特に耐震については部分的な補強等を検討したが、補強でもかなりの予算が必要になってくる。

第二ぎんなん作業所だけの建て替えは資金面でも、その後の運営を考えても難しく、育成会では今後の福祉ニーズに合わせた総合的な施設の建設も検討されている。さらに、老朽化した施設は、近年の利用者募集が困難になってきている一因にもなっている。

現在および将来の利用者のために、環境を整えた施設の建設について内外から要望が強くなってきている。

## 5 今後の課題

・継続的、長期的な課題

- ① 就労収益アップと工賃向上に向けた取り組み
- ② 利用者が減少し、収入的にも作業効果的にも支障が生じてきている。利用者獲得に向けて、各特別支援学校及び相談支援センターとの連携を強めていく必要がある。また、これから入ってくる利用者を迎えていくための環境整備をしていくことも考えていきたい。
- ③ 利用者の高齢化、体力の低下を考慮し、作業内容の工夫や見直しも検討していく必要がある。また作業場以外での生活についても、不都合が生じてきている利用者については、家族やグループホーム、相談員と連携して問題への対応ができるようにしていく。

令和4年度 第二ぎんなん作業所の主な行事等

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	11 28	家族会第1回懇談会 健康診断（吉田病院）	10	4 28	実習（熊大附属支援学校）～14日 インフルエンザ予防接種 （吉田病院）
5	17 31	文書集配担当者会 監事監査（しょうぶの里）	11	26	法人全体研修会
6	14	職場体験（熊大附属支援学校）	12	1 23	回収協力者年末挨拶開始 クリスマスケーキ贈呈
7	16		1	14 24	パイロットクラブ訪問 実習（はばたき支援学校）～2/1
8			2	6 10	支援実習（尚綱大学短期大学部） ～17日 文書集配担当者会
9	15	家族会第2回懇談会 支援計画見直し	3		支援計画見直し 個別面談
		※委託販売先：県庁喫茶りんどろ（県育成会）、セレクトショップUMU			
作業所 運営の 会議等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情解決第三者委員会：年1回実施（3月）→R4年度は中止</li> <li>・職員会：スタッフ7人で実施（毎週水曜日）</li> <li>・文書集配担当者会：ドライバー5人を交え年2回実施（特定個人情報取り扱い研修含む）</li> <li>・家族会懇談会：年2回実施（4，9月）</li> <li>・個別支援会議（面談）：年2回実施（9，3月）</li> </ul>				
中止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大江小学校えのき祭り</li> <li>・熊福連総会</li> <li>・熊福連仲間の交流会</li> <li>・県営山の上団地夏祭り</li> <li>・一泊旅行</li> </ul>				